

松江市出雲玉作資料館

資料館だより

松江市出雲玉作資料館発行

〒699-0201 松江市玉湯町玉造 99-3

開館時間 9時～17時（入館は16：30まで）

休館日；月曜日・休日の翌日 TEL・FAX（0852）62-1040

■ 8月6日（土）出雲科学館さんが“めのう公園”を見学

出雲科学館の職員さんと出雲市内の小中学校の先生方20名が片岡館長の案内で、めのう公園を見学されました。花仙山の中腹にある「めのう公園」では、めのう採掘坑道入口が公開されています。碧玉の産出状況を見学することができます。

■ 8月24日（水）島根大学の学生さん2名が博物館実習で玉作資料館を見学



松江歴史館にて博物館実習中の島根大学の学生さん2名が玉作資料館に来館されました。

片岡館長から資料館の概要や1階の古代の玉作り、2階展示室の企画展「松江藩と玉造御茶屋」や当地の焼き物布志名焼の説明を受け、熱心に見学されました。

■ 8月25日（木）～26日（金）玉作資料館にて玉造温泉新人研修



玉造温泉旅館組合さんが「玉造温泉勉強会」を企画され、2日間で19名の玉造温泉旅館・ホテルの新人従業員さんが、片岡館長の案内で玉作資料館を見学・学習されました。これから玉湯の歴史や文化の知識を深め、玉造温泉へ来られたお客様に玉湯の魅力を十分に説明や案内が出来るように頑張っていたいただければとエールを送ります。

■ 今月の一品 作品名：黒蒔絵懐石膳 作者：勝軍木庵光英（初代）（ぬるであん みつひで）

享和2（10802）～明治4（1871）年 製作年代 不明



勝軍木庵は、漆壺斎と並び、出雲地方を代表する漆芸の名工です。勝軍木（ヌルデ）は漆のことで、松江藩主松平齊貴公が命名したものとされています。光英は塗師である三島屋良兵衛の子として生まれました。短気な性格で、弟子に対しても厳しく、仕事熱心だったようです。時の藩主齊貴公の引き立てで、江戸の塗絵師梶川清川について本格的に蒔絵を学び、梶川系の高蒔絵を得意とし、金尽くめの華麗な作品を多く作りました。



この懐石膳は、煌びやかな作品の多い勝軍木庵にしてはしっとりとした渋い仕上げになっています。この膳は1尺2寸（36.4cm）四方の黒蒔絵で、研ぎだし技法により、薄と小さな蝶が儂げに描かれ、秋の物寂しい風情を醸し出しています。

箱書きには光英作の墨書と壺形内に「有楽」の印があります。

*** 受付の前に展示しています。**

（写真では蒔絵が見えにくいと思いますので、実際に是非見に来ていただきたい作品です。）

■9月のロビー展

無料

出雲玉作資料館友の会主催

実重 攻 色鉛筆画展



★県内の風景や、似顔絵などを展示しています。

■【休館日のお知らせ】

9/5(月) 9/12(月) 9/20(火) 9/26(月)

■10月ロビー展は【栗原 哲朗 秋の山野草 展】です。